

上下一体 新たな門出

JGMA社員総会

理事に石田トミス社長

日本グラウンドマンホール工業会（JGMA）
原口康弘会長は17日、
都内で令和7年度社員総

会を開催。4月1日に水道用鉄蓋工業会（WIRA）と統合し、上下水道の鉄蓋団体となったこと



青木理事長



岡久理事長



原口会長

を踏まえ、今年度予算案等を審議し、承認した。理事にトミスの石田清社長（元WIRA会長）が選任された。

あいさつした原口会長は、水循環基本計画や上下水道政策のあり方検討会などに言及した上で、上下水道の持続へ適切な鉄蓋更新の重要性を訴えていく姿勢を示した。

今年度は、昨年新宿区で起きた鉄蓋飛散事故以降の行政の動きを注視しつつ、予防保全型の維持管理に向け、関係団体との意見交換を行う。また、水道領域の鉄蓋維持管理

における基盤整備として、水道用鉄蓋の維持管理状況の把握や、水道・下水道での維持管理基準の比較整理を進める。

総会終了後、国土交通省の茨木誠上下水道技術企画官が「最近の上下水道行政について」と題して講演した。同省の「下水道等」に起因する大規模な道路陥没事故を踏まえた対策検討委員会」の第2次提言で、メンテナンスリテイ向上の観点から、マンホール設置間隔の見直しについて言及されたことなどを紹介した。

懇親会では、茨木企画

官と、日本下水道協会、岡久宏史理事長、日本水道協会の青木秀幸理事長があいさつした。

このうち、岡久理事長は、委員を務めている国交省陥没対策検討委員会でのマンホール設置間隔見直しの議論について触れ、「下水道の今後の維持管理に貢献いただければ」と呼びかけた。

青木理事長は、「水道で培われてきたノウハウ、下水道で磨いてこられたノウハウの相乗効果を発揮していただければ」と団体統合の効果に期待を寄せた。